

わが社のCSR戦略

大成ファインケミカル社長

稲生 豊人氏

大成ファインケミカル(千葉県旭市、稲生豊人社長、0479・64・2077)は2008年1月にCSR推進室を発足させ、中小企業では先行してCSR(企業の社会的責任)活動に取り組んでいる。段階的なCSR活動の推進、そのベースとなる「ブリリアンスマネジメント」について稲生社長に聞いた。

(千葉編集委員・中沖泰雄)

—これまで一歩一歩CSR活動を進めてきました。

「法令と道徳を守るのは義務であって当たり前のことだ。これがゼロ番目のステップ。その上で取引先や従業員を含めた全てのステークホルダー(利害関係者)に対する責務を果たすことが1番目のステップで、利

益を社会に還元するのが2番目のステップとなる」

—ブリリアンスマネジメントとは。

「私の『経営の父』で、当社の創業者である徳倉真治氏の経営理念を、私なりに解釈してまとめた。経営品質を向上させることで、当社、全てのステークホルダー、そして社会全体を輝かせようというのが骨子になる。ブリリアンスマネジメント=CSRだと考えている」

—従業員をどのように輝かせていますか。

「RPA(ソフトウェアロボットによる業務自動化)を導入できないかなどと生産性の改善を進めているが、成果が認められれば、うれしいし、主役になって輝けられる。従業員と

経営品質高め社会に輝き



CSR活動を推進するためワークショップが行われている

技術が輝けば、取引先などステークホルダーが輝き、そして社会を輝かさせられる。その意味で、利益は自社だけのものではなく、新しいサービスを開発したり、事業を継続させたりするための原資だ」

—事業の継続性を重視しています。

「当社はオーダーメイドで樹脂・機能性商品を供給

しており、生産が中断した場合、他社からの代替はできず、メーカーとしての安定供給責任を果たせない。そのため、事業継続マネジメント(BCM)を強化している。継続性を重視すると、目先だけの利益を追求しなくなり、利益はステークホルダーや社会還元への原資でもあると考えられるようになる」